

～演奏者からのメッセージ

〈18世紀パリで活躍した音楽家たち〉

それまでヴァイオリン属の低音楽器として、主にアンサンブルの中で伴奏の役割を担っていたチェロは、17世紀後半の北イタリアで独奏楽器としても活躍を始め、急速にヨーロッパ中に広まりました。

その頃、フランスの宮廷では、舞踏の名手でもあった「太陽王」ルイ14世のもと、「イタリア趣味」を排した「フランス趣味」の音楽が独自の発展をします。各種の舞曲を編んだフランス独自の「組曲」のスタイルで多くの作品が書かれ、より「優雅で繊細な」響きのするヴィオールが好まれました。しかし18世紀に入ると人々の趣味が変化し、より「力強い」響きのするチェロが徐々にヴィオールに取って代わり、音楽作品の上でもイタリア音楽の書法を取り入れたフランスとイタリアの「趣味の融合」がなされていきます。そうした動きと並行して、フランス宮廷で行われていた音楽が一般市民にも開かれるようになり、1725年のパリで「コンセール・スピリチュエル」の名で知られる音楽史上初めての公開演奏会がはじまり、音楽家の在り方を根本的に変える画期的な活躍の場が切り拓かれました。この演奏会シリーズには後に外国からの演奏家たちも登場するようになります。

各国の音楽家が生き生きと影響し合うなか、優れたチェリストたちによって様々な演奏技術が編み出され、チェロ音楽が目覚ましく展開したこの時代の諸作品を、今回は2艇の「バロック・チェロ」のデュエットでお届けします。チェンバロやリュートなど和音を付する楽器を伴わずに演奏することで、チェロの持つ幅広い音域、そしてガット弦の持つ豊かな響きと表現力を、低音楽器／独奏楽器の両面からより深く味わっていただければ幸いです。

Music by

François Couperin (1668-1733)

Jean-Baptiste Barrière (1707-1747)

Joseph Bodin de Boismortier (1689-1755)

Jacob Klein (1688-1748)

Giuseppe Fedeli Saggione (1680?-1733?)

Luigi Boccherini (1743-1805)

～新型コロナウイルス感染拡大防止対策について～

*当公演は前半、後半とも30分程度のプログラムとし、休憩時間に換気をいたします。

*お客様間の距離を十分に保つため、定員の半数以下50席に限定いたします。

*マスクの着用、および入場時の手洗い消毒にご協力をお願いいたします。

*咳、発熱、頭痛など体調に異常がある方は、来場をお控えください。

*チケットの裏面に、来場者のお名前とご連絡先をご記入ください（感染拡大防止のため、購入者ではなく実際に来場された方全員の連絡先を把握する必要があります）。チケットは公演終了後に回収いたします。

企画／お問合せ：MA企画 kikaku_ma@yahoo.co.jp

Web情報：<https://makikotomita.mystrikingly.com>

